

融かして塗る光触媒担体

これまで一貫して、分子触媒を担体に固定し、固定間隔や密度に応じた反応特性を見出す研究を進めてきました。具体的には、生体分子（タンパク質）、金属錯体（配位高分子）、無機メソ結晶といった多孔性材料に錯体触媒や光増感剤を固定し、可視光応答型水素発生反応や酸素発生反応を進めてきました。これらの触媒は粉末です。条件によっては、濁度が高すぎて光が散乱する、担体が光を一部吸収する、という課題がありました。

そこで、これまで使用経験がある配位高分子を用いた課題解決を試みました。・・・